

経営比較分析表

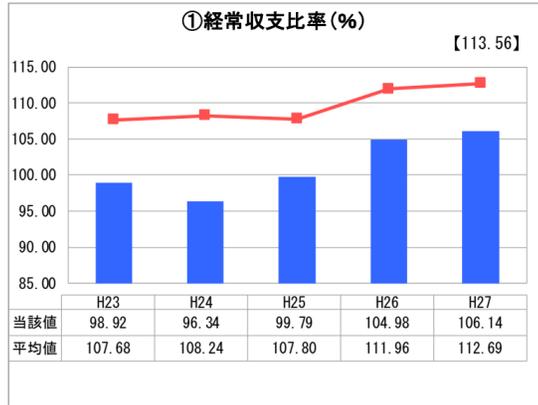
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	59.34	100.00	2,484

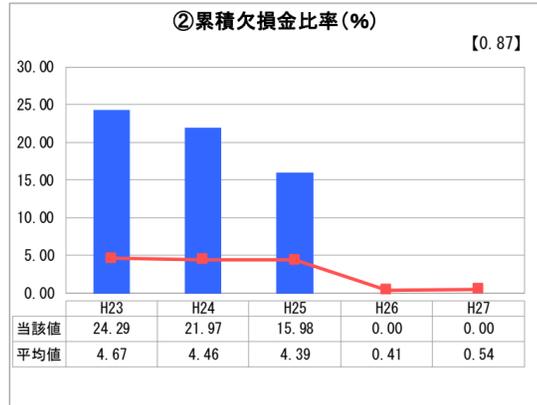
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
96,748	18.47	5,238.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
94,903	11.93	7,954.99

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

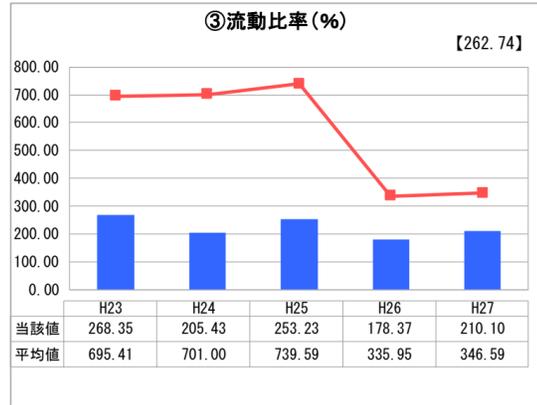
1. 経営の健全性・効率性



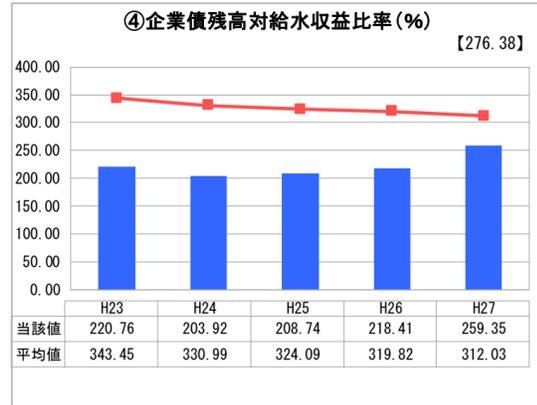
「経常損益」



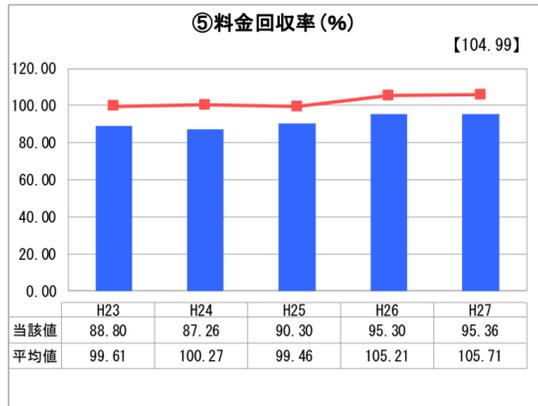
「累積欠損」



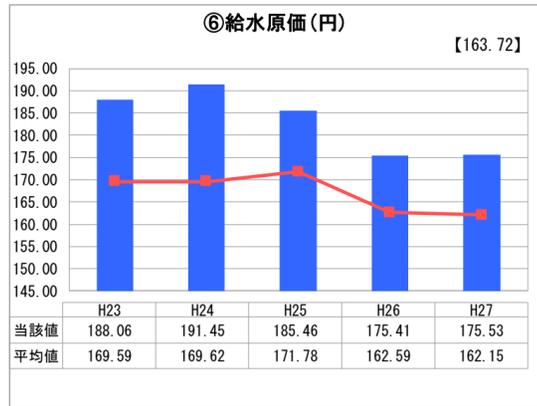
「支払能力」



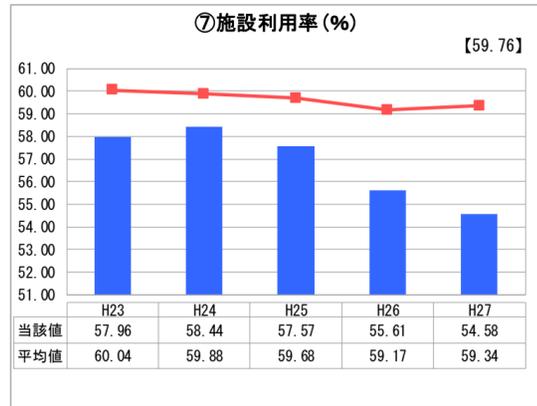
「債務残高」



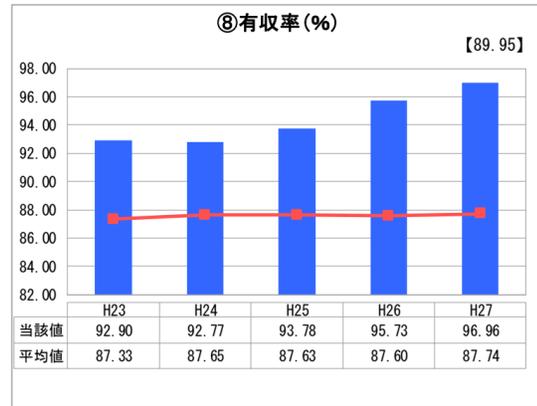
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

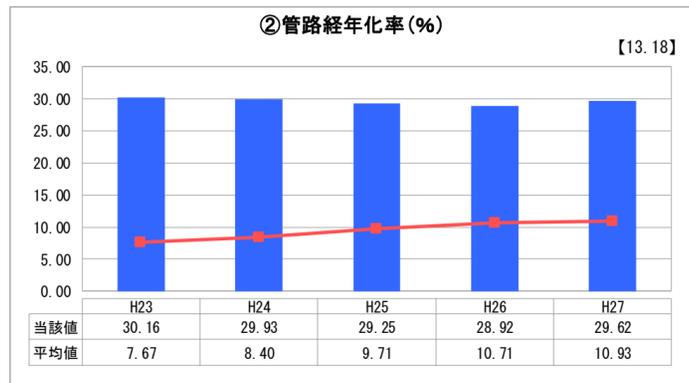


「供給した配水量の効率性」

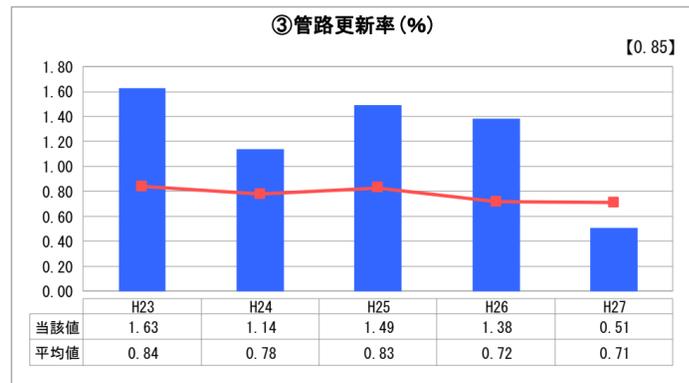
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

芦屋市の水道事業は、高度成長期頃に大規模な施設整備や、阪神水道企業団への加入により、右肩上がりで見込まれた需要に備えたが、阪神淡路大震災を契機に節水型のライフスタイルが定着し、現在では有収水量は減少傾向にある。また、商業施設が少ないことから大口の利用者も他団体と比較して少ないのが特徴である。

現在は当時投資した老朽管や施設の更新時期となっており、減価償却費相当額を計画的に投資している。計画していた需要量は平成27年度においてもますます減少しており、施設利用率はさらに低下している。有収率については、引き続き効率的な投資・維持保守に努め、全国平均を上回っている。

経営面においては、経常収支比率など、有収水量が減少するなか事業内容の見直しや経営の効率化を図り徐々に改善している。

料金回収率が100%未満でありながら純利益が発生しているのは、特別利益(負担金収入等)によるものである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率や管路経年率などからもわかるように、昭和初期から高度経済成長期にかけて集中して投資した管路・施設の更新や耐震化が現在の課題である。管路の更新については施設等の更新計画や財政計画(『水道ビジョン』)を立て、計画的に投資を行っている。

全体総括

有収水量の減少は、今後も一定量まで減少することが見込まれる中、老朽した水道施設の更新は今後『水道ビジョン』などにより長期かつ計画的に行う必要がある。

平成27年度においては施設設備の更新を優先したことにより管路更新率は全国平均を下回った。管路更新を計画的に実施するためにも、さらなる経営の効率化を進めながら、今後、適切な料金について検討を要する。

また、受益者への理解を深めていただくためにもわかりやすい情報提供を、機会を捉え積極的に進めていく。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。